

立命館大学大学院
2020年度実施 入学試験

一貫制博士課程

先端総合学術研究科

先端総合学術専攻

入試方式	実施月	専門科目		小論文	
		ページ	備考	ページ	備考
一般入学試験	9月	×		×	
	2月	P.1~		P.3~	
一般入学試験(自己推薦)	9月				
	2月				
社会人入学試験	7月 (2020年9月入学)				
	9月				
	2月				
外国人留学生入学試験	7月 (2020年9月入学)				
	9月				
	2月				
学内進学入学試験	7月				
	9月				
	2月				
APU特別受入入学試験	7月 (2020年9月入学)				
	9月				
	2月				
飛び級入学試験	2月	P.1~	一般入試方式と 共通問題	P.3~	一般入試方式と 共通問題
転入学試験	7月 (2020年9月入学)				
	9月				
	2月				

【表紙の見方】

P.●…入学試験問題の掲載ページを示しています

×…入学試験の実施がなかった等の理由で入学試験問題の作成がなかったもの、または、問題を公開しないもの

斜線…学科試験(筆記試験)を実施しないもの

問題冊子は回収します

2021 年度

先端総合学術研究科（一貫制博士課程）

一般入学試験問題（2021 年 2 月 7 日実施）

専門科目

入試方式	試験時間	解答方法
一般入学試験	9 : 40～11 : 10 （90 分）	問題を解答

（途中退室はできません）

【解答にあたっての注意】

1. 使用する言語のすべての解答用紙に受験番号・氏名を記入すること。
（使用しない言語の解答用紙には受験番号・氏名を記載する必要はない）
2. 試験中に気分が悪くなった場合は、静かに手を挙げて監督者に知らせること。

問1 以下の中から用語を3つ選択し、それぞれの意味する内容を400字以内で説明せよ。

Q 1. **Select three from the following terms and explain the meaning.**

- 文化資本 (cultural capital)
- 専門職化 (professionalization)
- ジェンダー (gender)
- トリアージ (triage)
- 生殖技術 (reproductive technology)
- 反出生主義 (anti-natalism)
- マルチサイトッド・エスノグラフィ (multi-sited ethnography)
- ギグ・エコノミー (gig economy)
- 監査文化 (audit culture)
- シュルレアリスム (surrealism)
- ゲーミフィケーション (gamification)
- 管理社会 (control society)

問2 以下の設問から1つを選択し、1000字以上1500字以内で論述せよ。

Q 2. **Select one from following questions and answer it.**

- (1) 公衆衛生政策の必要性と問題点について述べよ。
Discuss the need and problems of public health policy.
- (2) 人間のエンハンスメントについて倫理的な側面から論ぜよ。
Discuss the human enhancement from the ethical perspective.
- (3) 予測不可能性の肯定的な側面について論述せよ。
Discuss the positive aspects of unpredictability.
- (4) フェイスブックやアマゾンなどのプラットフォームの文化的影響について論述せよ。
Discuss the cultural impact of platforms like Facebook or Amazon.

問題冊子は回収します

2021 年度

先端総合学術研究科（一貫制博士課程）

一般入学試験問題（2021 年 2 月 7 日実施）

小論文

入試方式	試験時間	解答方法
一般入学試験	11 : 40～12 : 40 （60 分）	問題を解答

（途中退室はできません）

【解答にあたっての注意】

1. 使用する言語の解答用紙に受験番号・氏名を記入すること。
（使用しない言語の解答用紙には受験番号・氏名を記載する必要はない）
2. 試験中に気分が悪くなった場合は、静かに手を挙げて監督者に知らせること。

日本語の論述試験と英語の論述試験の <いずれか1つ> を選択し、文章を読んで設問に答えよ。

(日本語の問題を選んだ場合には、英語の問題には解答しないこと)。

Select either the Japanese or English examination, read the sentences and answer the questions. (If you choose the English examination, you don't need to answer the Japanese one.)

小論文 (日本語)

以下の文章を読み、設問に答えよ。

人間生活の領域は、無数の人工物で支えられ、満たされている。道路や橋、堤防といった建造物は、自動車や自転車のような交通手段を円滑に走らせ、川で隔てられた場所を最短距離で結び、川の水の流入を妨げ生活領域を安全に保つといった人間的な目的のためにつくられそして整備された。人間が設定する目的があり、それに導かれていくようにして作りだされて成立するのが、人工物の世界である。

これに対する自然とは何だろうか。それは、人間が設定する目的手段連関とはかかわりのないところでおのずと生じていくもの、それとしてあるものとしかいいようのない何ものかであるが、機械化され人工物が増えていく状況においては、それはただ機械的でなく人工的でないというように、否定的な言い方でしかいえないものになってしまう。

ただし、自然には、北極の氷や富士山の頂上のように、人間の生活とは無関係に存在するものもあれば、イタリアのヴェネチア市内を流れる川のように、交通や運搬といった人間生活の支えとなるインフラとして使われるものもあると考えることもできる。

あるいは、経済学者であり社会哲学者でもあるハイエクが述べているように、習慣や伝統や礼節のようなものが人間生活の領域の支えになると考えることもできる。ハイエクはそれを自生的秩序と呼び、日々の積み重ねのなかで着実に形成され維持されてきた性格ゆえに一種の自然性を有すると主張した。そしてハイエクは、この自生的秩序と対置されるのが計画主義的な社会設計の思想であると考える。計画主義的な秩序においては自生的秩序の自然性が軽視されてしまう。

人間生活において自然は、人間的なものとは無関係のところでありながら、人間生活の一部となって組み込まれているものであり、さらには習慣や礼節という、人間的な領域の支えとなって形成されたものの性質(おのずから生じてくる)を意味することもある。そう考えるなら、人間が実際に生活しているところでは、人工と自然は明確に識別されることはないということになるだろう。つまり人間は、(1) 完全に人工的な状態で生きることもなければ、完全に自然な状態で生きることもなく、両者が接し、連関していくところで生きている。

そして人間生活は、境界区分された領域において営まれている。広漠としたひろがりのなかにおいてではなく、私的領域と公的領域、私の領域と不特定多数のための領域、私たちの領域と私たちならざる者たちの領域というように、境界で明確に区分されていくところで営まれる。境界は、壁やフェンスというような物理的建造物として構築されているだけでなく、監視カメラ、ID 認証システム(カードキー、パスワード)のような情報通信技術で、ネットワーク的に管理されている。境界の内部における生活は、そこにふさわしい活動の種類や度合いの限界内で営まれるが、そのふさわしさの水準を安定的に維持するのが、物的および情動的なコントロール装置のシステムである。

ただし、(2) 人間生活の領域における境界区分は、公と私、私と他人、私たちと私たちでない人たちのあいだに形成されるだけでなく、人間生活の領域そのものを、それをとりまく自然としかいいようのないものから区別していくところにおいても成立する。

瀬戸口明久は、ここに引かれる境界を、「静的に作動する科学技術」と規定する。「科学技術社会は、自然と人間のあいだに厳密な境界線を引こうとする。そしてお互いのあいだを越境して侵入することを容易には許さない。場合によっては許容したとしても、それを厳格に管理しようとする」。そこには、堤防や耐震構造、防潮堤のような建造物だけでなく、水位計、地震計のような観測装置も含まれる。

瀬戸口の議論が重要なのは、人間生活が科学技術に支えられていること、それも、物理的なインフラとして具現化された科学技術に支えられていることを論じるからである。人間生活を自然から区別し、安定的に維持する物的装置の連関が現実存在するということへと関心を向けていくからである。そしてこの議論を踏まえて思考を進めていけば、人間生活の内部に引かれた境界を支える科学技術の物的装置の連関が、じつは人間生活と自然を隔てる境界の技術とシームレスに連関しているという仮説を導き出すこともできる。

(出典：篠原雅武『人新世の哲学—思弁的實在論以後の「人間の条件」』人文書院、2018年、24-28頁。一部改変)

問 1 下線部 (1) に「完全に人工的な状態で生きることもなければ、完全に自然な状態で生きることもなく、両者が接し、関連していくところで生きている」とあるが、これはどういうことか、自分の専門分野の具体例を挙げながら 1000 字以内で論じなさい。

問 2 下線部 (2) から後半の議論では、<人間生活の領域そのものに対する外部としての自然>を問題にしていると言える。そのような自然が人間にどのように関わり、人間にとっていかなる意味を持つのかを 1500 字以内で自由に論じなさい。

Discussion Exam (English)

It might be objected that moral questions are not peculiar in this respect—that we are free also to form our own opinions about such matters as whether the world is round. In a sense this is true; but we are free to form our own moral opinions in a much stronger sense than this. For if we say that the world is flat, we can in principle be shown certain facts such that, once we have admitted them, we cannot go on saying that the world is flat without being guilty either of self-contradiction or of a misuse of language. That nothing of this sort can be done in morals is a thesis which must have the support of all those who reject naturalism. I shall not now argue this thesis, since I have done so before; I shall later, in passing, bring forward certain further arguments against naturalism, and against attempts to revive it in more sophisticated forms. But for the moment let us assume that there can be no logical deduction of moral judgements from statements of fact. If this be once granted, it follows that we are free to form our own moral opinions in a much stronger sense than we are free to form our own opinions as to what the facts are.

Against this conviction, which every adult has, that he is free to form his own opinions about moral questions, we have to set another characteristic of these questions which seems to contradict it. This is, that the answering of moral questions is, or ought to be, a rational activity. Although most of us think that we are free to form our own opinions about moral questions, we do not feel that it does not matter what we think about them—that the answering of moral questions is a quite arbitrary business, like the choice of one postage stamp from the sheet rather than another. We feel, rather, that it matters very much what answer we give, and that the finding of an answer is a task that should engage our rational powers to the limit of their capacity. So the freedom that we have in morals is to be distinguished from the freedom which comes when it simply does not matter what we do or say. That is why, when people grow up to the stage at which they start to understand that in moral questions they are free to form their own opinions, they feel this freedom not as an emancipation but as a burden.

This antinomy is the source of nearly all the central controversies of moral philosophy. Most moral philosophers have taken their stand on one side of it or the other, and this has left them denying important truths which are emphasized by the side which they have rejected. Some have thought it so important to preserve our freedom in moral matters, that they have denied the rationality of morals, because they thought (wrongly) that it was a restraint upon freedom. To this class belong most of those philosophers known by the highly ambiguous name of 'subjectivists', together with those others called 'emotivists'. Others have thought it so important to emphasize that moral thought can be a rational activity, that they have, because freedom appeared incompatible with rationality, denied our freedom to form our own opinions. To this class belong all those moral philosophers whom I shall call 'descriptivists', of whom the principal group are those called 'naturalists'. It is the task of moral philosophy, and the task of this book, to look for a way of reconciling these apparently incompatible positions, and thus resolving the antinomy between freedom and reason.

出典： Reprinted from *Freedom and Reason*, by Richard Mervyn Hare, Oxford Publishing Limited. Copyright © 1977 Oxford Publishing Limited. Reproduced with permission of the Licensor through PLSclear.

Questions:

- 1) In what way is the freedom to answer moral questions different from what is the case in other more empirical domains?
- 2) What is the antinomy of which the author is speaking?
- 3) In what sense is the freedom of answering moral question a burden?
- 4) What is the central purpose of the book of which the above text is an extract?